



カルチョの歴史は

～モッジ事件の最終的な裁きが意味するもの～

繰り返された

残念な話ではあるが、イタリアサッカー界は、またしても同じ過ちを繰り返そうとしているようだ。ルチアーノ・モッジを主犯格とした、史上最悪のスクアンダルとされた「モッジ事件」とその顛末。これまで、ミラン、ラツィオ、フィオレンティーナのセリエB降格処分が撤回されたばかりか、当初はC1降格と言われていた主犯ウヴェントスの処分も時間の経過とともに軽減されてしまった。



文◎クリスチャーノ・ルイウ

Text by Cristiano Ruiu

翻訳◎宮崎隆司

Translation by Takashi Miyazaki

写真◎アフロ

Photo by AFLO

弱き人々の声は、またしても届かず 抜本的改革の好機をイタリアは逃す

7月25日発売の本誌の姉妹品「フットボールライフ・ジュニオールvol.2」に掲載した記事の冒頭で、私は次のように書いた。『驚くべきは、その盗聴記録が遂に(A4用紙にして)1万ページを超えたことだ。事ここに至るまでに気付かずにいた者たちの傲慢にも、権力の全てを手にかけていると思ひ込んでいた男たちの愚か過ぎる頭脳にも、我々は今、間もなく始まろうとしているスポーツ裁判法廷を前にし、ただただ驚き入るより他ない』。

そして、『最終判決(7月24日)まで、絶対に誰の介入も許してはならない。仮に、またしても過去のようなトリックを法に絡ませようとする者があれば、その者はズデネク・ゼーマンが語るように、「この世界から、速やかに抹殺されなければならない」と結んだ。

だが今、そうした主張(国内世論の大勢)は完全に葬り去られてしまった。おそらくはイタリアのサッカーファンすべて、あるいは世界のサッカーファンすべての思いは、やはり「裁かれるべき者たち」が持つ巨大な権力の前に、脆くも潰れてしまったのである。またしてもイタリアは自浄能力の無さを露呈し、むしろ「法の信頼性」すら存在しない国家であることを曝け出してしまった。そうやってしまう以外にない状況に、今、イタリアは立たされている。

「この世界から速やかに抹殺されなければならない」というゼーマンの言葉を引用した際、私の中には、半ば確信に近い思いがあった。国内サッカー史上最大のスクアンダルであったからこそ、もはやどういった言い逃れも許されないはずだと信じていた。「今回の裁判で正しい答えが出されなければカルチョは終わりだ。それだけの事件を我々は目の前にしている。だからこそ、今度こそイタリアは正当な裁きを可能にしなければならない」。そうした人々の声が、遂には巨大権力をも完全に叩きのめすはずだと信じ

ようとしていた。

イタリアサッカー史上最大のスクアンダル。だがそれは、逆説的に言えば「だからこそ絶好の機会」とも言えたはずであった。これだけの注目が集まる裁判であるからこそ、抜本的な体質の変化を現実にするチャンスに他ならなかったのではないか。だが、その好機をイタリアは逸し、代わりに恥すべき結果を曝した。ならば今日の我々は、必然的にこう断言できることになる。

「また必ず今回のような事件は起きる。永く繰り返され、新たなモッジを生む土壌は増々肥沃になっていくはずだ」と。

国内の多くの人々が、ようやく目にした 「正しい裁き」を最後まで信じようとした

すべての罪(クラブ側の直接関与)が立証された場合に採られるべき裁定とは、【コヴェントス】セリエC1降格(加えて、04-05、05-06スクデット剥奪)。【フィオレンティーナ】セリエB降格。【ラツィオ】セリエB降格。【ミラン】セリエB降格。

そう我々は主張し、対して検察側代表を務めるステファノ・パラッツィ(代表顧問はフランチェスコ・サヴェーリオ・ボッレリ)。90年代初頭にイタリアで起きた国家的政治・司法汚職事件「タンジエントーポリ」に際し、陣頭指揮を執った当時の検察官長官。今回の事件を受けFIGC暫定コミッショナーに就いたグイド・ロッシから任命され裁きに当たっていた)は、06年7月4日、以下のような求刑内容を公式に発表した。

【コヴェントス】セリエC1降格の上、6ポイント減点で06-07シーズンをスタート。
【フィオレンティーナ】セリエB降格の上、15ポイント減点で06-07シーズンをスタート。
【ラツィオ】セリエB降格の上、15ポイント減点で06-07シーズンをスタート。
【ミラン】セリエB降格の上、3ポイント減点で06-07シーズンをスタート。

また、ルチアーノ・モッジとアントニオ・ジラウド(元コヴェントスGM)、デッラ・パッレ兄弟(フィオレンティーナ首脳)、クラウドィオ・ロティート(ラツィオ会長)ら、各クラブ首脳にはいずれも5年、一方のアドリアーノ・ガリアーニ(現プロリーグ会長兼ミラン副会長)には2年の追放処分を求刑。

04-05シーズン終了後に起きたセリエBでの八百長事件、その後の結末を顧みれば、それは極めて順当な求刑内容であった